

<株式会社エフエム東京 第360回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成21年7月7日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）
 - ◇出席委員（5名）
 - 子安美知子 委員長 青池慎一 副委員長
 - 内木文英 委員 横森美奈子 委員
 - 香山リカ 委員
 - ◇欠席委員（2名）
 - 渡辺貞夫 委員 内館牧子 委員

4. 議題

- 【番組名】話題沸騰! ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝の
辻井伸行さんが帰国後初の演奏を TOKYO FM ホールで披露!
TOKYO FM 午後のワイド番組『DIARY』で完全生中継（ダイジェスト版）
- 【放送日時】2009年6月11日（木） 14:00～16:00 放送分

【番組概要】

世界的演奏家を多く輩出しているアメリカの「ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール」で日本人として初めて優勝し、一躍時の人となった盲目のピアニスト辻井伸行さん（20歳・上野学園大学3年生）が、帰国直後の6月11日（木）15時に TOKYO FM ホールにて凱旋生演奏を行い、その模様を生中継しました。

辻井さんが披露したのは、コンクールでも演奏した「ラフマニノフ ピアノ協奏曲第二番」。急遽、特別に招待した限定40組80名のリスナーと新聞テレビ他の全主要マスコミの前で、中学時代からピアノの指導を受けている恩師・横山幸雄氏と対談し、2台のピアノで共演しました。ステーションキャンペーン「ヒューマンコンシャス ～生命を愛し、つながる心～」を展開している TOKYO FM は、受賞前の段階で辻井さんの際立った才能を認めて帰国後の出演を依頼。その交渉段階で辻井さんから表明された「横山先生への感謝の気持ちを、演奏家として『共演』することで表現したい」という意向を受け、出演に加えて共演の場を準備。その結果、当社は日本中が注目する帰国後初めての演奏を独占生中継する成果を得ることができました。当日及び翌日の新聞テレビ、インターネットサイトで TOKYO FM の企画として大きく扱われました。

この貴重な生演奏とインタビューはマルチトラック録音し、当日夜の再放送はもちろん、13日(土)放送の『MUSIC APARTMENT』(15:25~15:55/JFN系38局ネット)と15日(月)放送の『クロノス』(5:00~8:30/JFN系38局ネット)でも全国に向けて放送しました。

本日は、この模様を生中継した午後のワイド番組『DIARY』を、ダイジェストでお聴き頂きます。

◇「ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール」とは

1958年にモスクワで開かれた第1回チャイコフスキー国際コンクールで優勝したアメリカのピアニスト、ヴァン・クライバーンさんを記念して、1962年に創設。テキサス州フォートワースで4年ごとに開催されている。世界的にもハイレベルのピアノコンクール。

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 辻井伸行さんの日本における帰国後初の演奏会を TOKYO FM で実施したことを心から褒めたい。誠実感のある彼の話し方やコメントに心を打たれた。また、アナウンサー自身が感動している様子が、その言葉から率直に伝わってきた。番組側の想いや感動が伝わってくる良い放送だった。
- TOKYO FM の底力を示す素晴らしい番組だったと思う。民放の他の放送局ではなかなかできない仕事ではないだろうか。クラシック音楽に関する様々な蓄積や実績、人的な関係性があるからこそできた番組だと思う。一朝一夕にできる番組ではない。非常に良いタイミングでこのコンテンツを作ったことが素晴らしい。このような秘めた実力を発揮して、これからも良い番組を世に送り出してほしい。
- 辻井伸行さんのことはニュースで知り、すぐにCDを購入した。それまでは彼のことは知らなかった。だからこそ、この番組の企画力は凄いと思う。ヴァン・クライバーンの前から話をし、いち早く良いタイミングで帰国後初めての演奏を放送したというのは快挙だったと思う。また、恩師である横山氏の存在を早くから取り上げたことも素晴らしい。もっと良い状態で番宣ができていたら、かなり衝撃的なニュースだったので、もっと聴きたい人が聴けていたかもしれない。そういう意味では、再放送して聴ける機会を作ったことは良いことだったと思う。ただ、会場からレポートしていたアナウンサーの高柳さんの声のテンションが高すぎて、本編のダイアリーの落ち着いたトーンから切り替わったときに、若干違和感があった。クラシックのコンサート会

場ではないような騒々しさを感じた。

- テレビではなくラジオで放送したことに大変意義があると思う。もちろん、今回の受賞は、辻井伸行さんの技術や表現力が認められてのことだが、一般のテレビの視聴者はどうしても全盲であるということや、これまでの彼の生い立ちの部分に興味がいきがちになってしまう。彼が全盲でなければ、もしかしたらここまでメディアは取り上げていなかったかもしれない。そういった意味では映像を伴った辻井さんが求められてしまうのかもしれないが、今回の番組は音楽的にとても誠実な取り組みだったと思う。彼の音楽だけをしっかりと聴く機会をつくったことは有意義なことだった。
- 番審でクラシックを正面から取り上げた番組を試聴するのは初めてではないだろうか。これだけ本格的な番組を制作したことは素晴らしい。最近では自らゆっくりクラシックを楽しむ機会が少ないため、久しぶりに大好きなラフマニノフをじっくり聴けて嬉しかった。また、辻井さんと横山氏の前日の臨場感ある練習エピソードからは本番前の緊張感が伝わってきて、興味深く聴き入った。ただアナウンサーのコメントは若干気になった。辻井さんが凄いということ、指さばきがすごいというレベルで表現してほしくなかった。また、今後の音楽の表現について、20代の解釈云々…と質問をしていたが、「解釈」という言葉に違和感を覚えた。
- 当社の女性社員が以前から辻井さんの母親と親交があったことから、今回の番組が実現した。優勝してもしなくても番組に出てくださいという話はしていた。
- 再放送した土曜の「MUSIC APARTMENT」では30代40代女性の聴取率が上昇した。木曜の生中継に関する事前及び事後パブリシティが功を奏した結果だと考える。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「リサ・ステッグマイヤーのクロノス」
7月31日（金） 5：00～8：30 放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

<第360回放送番組審議会議事録>

次回審議会は9月1日(火)に開催することを決めた。

以 上